

令和元年 7 月 24 日

1. 大学名：筑波学院大学

2. 認証評価実施年度：平成 28(2016)年度

3. 「改善を要する点」の内容

基準項目：2-1

○ビジネスデザイン学科については、その前身である経営情報学科から収容定員未充足が続いており、平成 28(2016)年度に改組転換を行ったことから若干の学生数の向上がみられたが、依然として厳しい状況にあるため、引き続き学生確保に向けた取組みを行うよう改善を要する。

4. 改善状況及び結果

基準項目 2-1 について

平成 22(2010)年度以来、種々の入試改善を行っており、A0 入試の改善（平成 23(2011)年度セミナー型の導入 25(2013)年度作品型）、指定校推薦入試（平成 23(2011)年度）センター試験利用入試（平成 24(2012)年度）の導入を行い、受験機会の多様化を図りつつ、高校訪問の強化や広報戦略を見直してきた。

平成 26(2014)年 3 月に学外の有識者からなる「筑波学院大学の改革のための有識者会議」からの報告を受け、特に魅力ある学部に向けての改善に力を注ぎ、高校生の選択の幅を広げるため、履修モデルをコース化し、本学での学びの可視化を図り、新しい大学のイメージ作りを行った。また、学校法人東京家政学院経営改善計画（平成 27(2015)年度～平成 31(2019)年度）の策定、年度ごとの数値目標を定め、その実現のために、教職連携組織として学内にアドミッションセンター（平成 29(2017)年度）を立ち上げ、魅力あるパンフレットの作成、高校訪問の一層の強化など、入試広報の改善を図った。

平成 31(2019)年度からは、新たに地域デザインコースを設け、1 学科 5 コースとし、学べる内容の可視化を図ってきた。こうした長年の努力により本学の認知度が向上したことなどが寄与し、入学定員を確保できた。

少子化が進行する中、今後も毎年入学定員を確保し、速やかに収容定員の充足を図りたい。

5. エビデンス（根拠資料）一覧

基準項目 2-1 の資料

【2-1-1】総学生の推移

【2-1-2】入学生の推移

【2-1-3】筑波学院大学の改革のための有識者会議（報告）

【2-1-4】学校法人東京家政学院経営改善計画 平成 27 年度～31 年度（5 ヶ年）

【2-1-5】平成 26 年度 東京家政学院財務計画表（抄）